

5. アディスアベバの鼓動: アーバンウェルビーイングに関するケーススタディ —急速な都市化の中で—

Kinfe Abzo Teklemariam (Architect and Urban Designer, Ethiopia)
Biruk Tilahun Demissie (Urban and Regional Planner, Ethiopia)
Daniel Tesfaw Mengistu (Urban Planner, Ethiopia)

1. はじめに

2025年までに人口500万人に達すると予想される¹エチオピアの首都、アディスアベバの活気に満ちた鼓動が伝わってくる。この急速な都市化は、複雑なタペストリーのような課題と機会をもたらし、住民のウェルビーイングはその天秤にかけられている。アーバンウェルビーイングとは、身体的健康、精神的ウェルビーイング、社会的関係、経済的安定 (Bautista TG, 2023) を含む多面的な概念であり、都市の持続可能性の重要な要素である。都市の成長が加速し続ける中、都市化が住民の生活の質に与える影響を検証することは不可欠である。

アディスアベバが経済と文化の発展の中心地へと変貌を遂げたことは注目に値する。しかし、この急成長は同時に、インフラ、社会サービス、都市計画に莫大な圧力をかけてきた。このような背景の中、アディスアベバでは、公園や緑地、道路やパブリックスペース、交通インフラ、住宅など、住民の生活の質の向上を目指した大規模な開発が行われてきた。しかし、こうした取り組みは、本当にアーバンウェルビーイングに違いをもたらしているのだろうか。本稿では、こうした開発とアーバンウェルビーイングの関係性を掘り下げ、浮かび上がった成功と課題の両方を明らかにする。

アディスアベバの鼓動を調べることで、このケーススタディは、都市開発とウェルビーイングの間の複雑な相互作用に光を当てることを目的とする。公園や緑地、交通インフラ、住宅、ストリートコリドーやパブリックスペースにおける最近の取り組みを批判的に分析することで、これらの開発がアディスアベバの住民の身体的健康、精神的ウェルビーイング、社会的関係、経済的安定にどのような影響を与えるかを探る。

2. 公園と緑地

公園、アーバンフォレスト、緑地帯、河川敷は、休息、リラクゼーション、運動のための空

間を提供し、気温を下げることで、アーバンウェルビーイングを支えている。公園や緑地はアーバンウェルビーイングに欠かせない要素であり、住民に身体的活動、社会的交流、精神的リラクゼーションの機会を提供する (Wang'ombe, 2024)。さらに、公園はコミュニティの拠点としても機能し、イベントやフェスティバルを通じて社会的交流やコミュニティ形成を促進する。例えば、新しいフレンドシップ・パークでは、定期的に文化的なイベントやフェスティバルが開催され、市内全域の住民が集まっている。

身体的な利点に加えて、公園や緑地は精神的な健康にも大きな影響を与える。公園や緑地で過ごす時間が長い人ほど、ストレス、不安、抑うつレベルが低いことが研究で示されている (Eregata GT, 2019)。さらに、緑地へのアクセスは、空気の質の改善、騒音公害の減少、住民の身体活動の増加につながっている (Karadimitriou N., et al, 2021)。

市内の公園や緑地には、レクリエーションパーク (フレンドシップ・パーク、アンバサダー・パークなど)、専門的な役割のある公園 (グレル植物園、クジャク園など)、その他、ウォーキング・トレイル、エクササイズ・ステーション、ピクニック・エリアなどがある (AACPPPO, 2017)。これらのスペースは、市民がリラックスしたり、体を動かしたりできる場所を提供し、気温を下げ、様々な植物の生息地となり、アーバンウェルビーイングをサポートする役割を果たしている。

その重要性にもかかわらず、アディスアベバの公園と緑地は大きな課題に直面している。アディスアベバの公園と緑地は、不十分な計画、実施、施工によって荒廃しており (Karadimitriou N., et al, 2021)、都市面積全体の10%未満しか占めておらず、住民にとって希少な資源となっている (World Bank, 2019)。その結果、アディスアベバでは現在、1人当たり1平方メートル未満しか提供されておらず、世

界保健機関が定めた1人当たりの推奨最低面積9平方メートルをはるかに下回っている(AACPPO, 2017)。

現在のストラクチャープラン(2017~2027年)では、市内で利用可能な一人当たりの緑地を、2027年には少なくとも5平方メートル、2042年頃には9平方メートルを増やすことを目指している。これを達成するため、合計2730ヘクタールの土地がレクリエーションパークとして指定され、2つの特別な公園(グルレ植物園とアディス動物園)のかかなりの部分も憩いの場として利用できるようになってきている。さらに、90ヘクタールの近隣公園が開発される予定である。2027年までの間にこの総面積の40%を開発すれば、一人当たりの緑地面積は5.2平方メートルに達し、25年以内にすべてを開発すれば、一人当たりの緑地面積は8.9平方メートルに達する(AACPPO, 2017年)。

別の情報源によると、市は2030年までに緑地を30%増やすことを目標としている(AAEPGDC, 2020)。エントト公園、フレンドシップ公園、アンディネット公園などの新しいプロジェクトが実施され、住民に身体活動、レクリエーション、リラクゼーションの機会を提供している。公共公園や緑地の中で、市は少なくとも「公園の土地面積の15%を歩道、サイクリングコース、水場のために確保する」(AATB, 2023)よう取り組んでいる。

しかし、市内の公園や緑地もまた、低所得者層に影響するいくつかの問題に直面している。

手頃な入場料の設定不足、貧弱な運営と管理、不十分な維持管理や警備のために、低所得者層がこれらの空間を十分に利用することを妨げている。一部の公園への入園料の導入は、低所得層にとって大きな障壁となり、社会経済的なグループ間での公園へのアクセスの不平等につながっている。これは健康格差と社会的排除を永続化させる。

さらに、緑地の計画や実施が不十分なため、低所得者層が住む地域では公園が放置され、住民のレクリエーションや身体活動の機会が限られている。こうしたスペースの整備不良や治安の悪さも、市民の公園利用を阻み、心身の健康に影響を及ぼしている。市が十分な公共公園を提供できないことが問題を悪化させ、子どもたちが路上で遊ぶことを余儀なくされ、潜在的な危険にさらされている。解決策は、公園への手頃な入場料や無料アクセスを提供し、ガバナンスと管理構造を改善し、十分な維持管理と警備を確保することによって、こうした懸念に対処することにある。

公園や緑地は、身体的活動、社会的交流、精神的リラクゼーションの場として利用されるだけでなく、都市のヒートアイランド現象や洪水の軽減にも役立つ。課題もあるが、アーバンウェルビーイングを促進する上でこれらのスペースが重要であることを認識し、それを克服するために、市行政は利用可能なスペースの拡大に向けて取り組んでいる。

表1 近年のストラクチャープランにおける緑地の開発案

グリーン開発タイプ	面積(ヘクタール)	集水半径	面積(ha)
都市レベルの公園	>10	10km	2437
準都市レベルの公園	1-10	5km	237
郡レベルの公園	0.3-1	1.5km	56
近隣の公園	<0.3	0.3km	~ 90
河川緩衝緑地		51km (第1ラウンド29km、 第2ラウンド22km)	4500

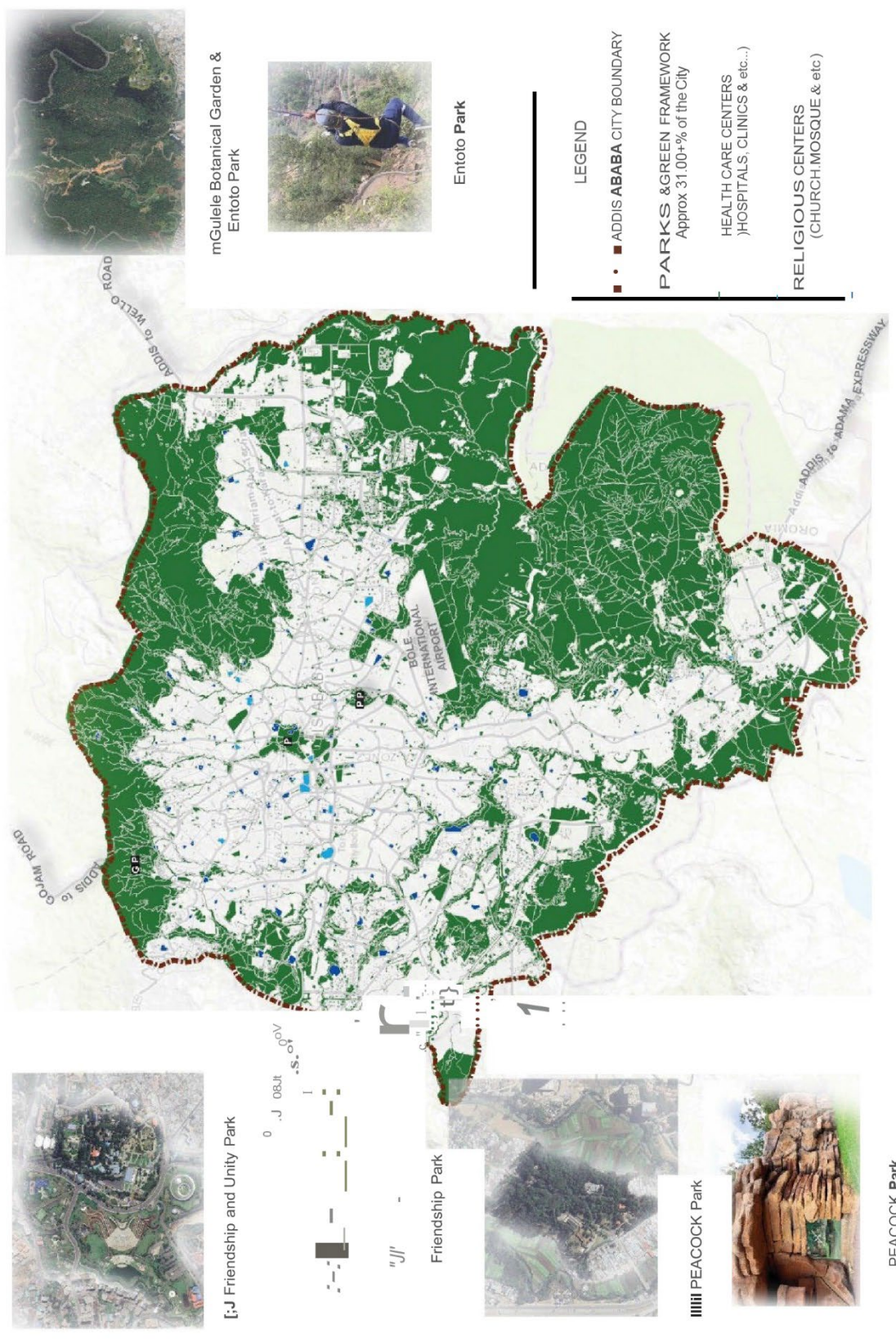


図1 アドイスアベバにおける都市公園とグリーンインフラの分布

3. ストリートコリドーとパブリックスペース

アディスアベバの都市景観は大きな変貌を遂げつつあり、パブリックスペースは住民の社会的交流、コミュニティへの参加、帰属意識の醸成に重要な役割を果たしている。チャーチル通りやメネリク2世通りといった市内の目抜き通りは、露天商や歩行者が入り交じり、活気に満ちている。これは年間を通じて文化的なイベントやフェスティバルが開催されるマスカル広場など、市内の主要な広場で特に顕著である。

国連ハビタット（2017）によると、パブリックスペースは社会的結束とコミュニティの発展を促進する上で重要な役割を果たすことができる。アディスアベバでは、ストリートコリドーやパブリックスペースの整備が進み、交流やコミュニティ参画の新たな機会が生まれている。例えば、アディスアベバの新しい通りには、歩行者に優しい歩道、自転車専用レーン、パブリックアートが設置されている。これらのスペースは、街の景色や音を楽しみながら通りを散策する住民にとって、人気のある集いの場となっている。

現在進行中の「コリドー整備プロジェクト」は、パブリックスペースの変革に向けた市の取り組みの代表例である。このプログラムは、自転車道、歩行者用歩道、公園、図書館、住居の選択肢の増加などを通じて街の景観を变えることで、街のインフラ、経済、生活の質を向上させることを目的としている。このプロジェクトはまた、老朽化した排水システムやライフライン網を改善し、開発によって移転を余儀なくされた人々に代替居住地を提供することも目的としている。

開発が予定されている40kmのコリドーは、ピアッサからアラット・キロ、アラット・キロ-ケベナ-マガナニヤ、アラット・キロ-ボレ空港-ボレ橋-マガナニヤ、ボレ橋-ニューアフリカコンベンションセンター-CMC、メキシコ-アフリカ連合-サーベット-ウォロ・セファまで伸びている。コリドー整備は、住民の環境の質を向上させるだけでなく、経済活動を後押しし、16,000人以上の雇用機会を創出している。また、コリドー整備プロジェクトは、住宅ニーズへの対応においても大きな成果を上げている。



図2 新しく整備された歩行者・自転車道のひとつ



図3 「テオドロス2世広場」周辺の歩道と噴水



図4 ピアッサ周辺でのコリドー整備のために整地されたエリア

市長室からの報告によると、規模の大きな土地の買い替えが必要な人々には、コルフエ・ケラニオ、グレレ、ニファス・シルク、ラフト、レミ・クラといったサブシティ（sub-cities。アディスアベバ市の下位行政区画）に代替居住地が提供されている。ダウンタウンエリアでの生活を希望する人々には、キルコス、リダタ、アディス・ケテマでの住居の選択肢が用意されている。賃借人には新しい住居が用意できるまで、

1年分の家賃が現金で支給され、引越し費用も支給される。

このコリドー整備プロジェクトの特筆すべき点として、持続可能なデザイン要素、ベンチ、樹木、ごみ箱、太陽光発電照明を取り入れたことが挙げられる。これは、市の環境フットプリントを削減するだけでなく、住民に快適な体験を提供する。さらに、コリドーは緑地を増やすように設計されており、ウォーキングやサイ

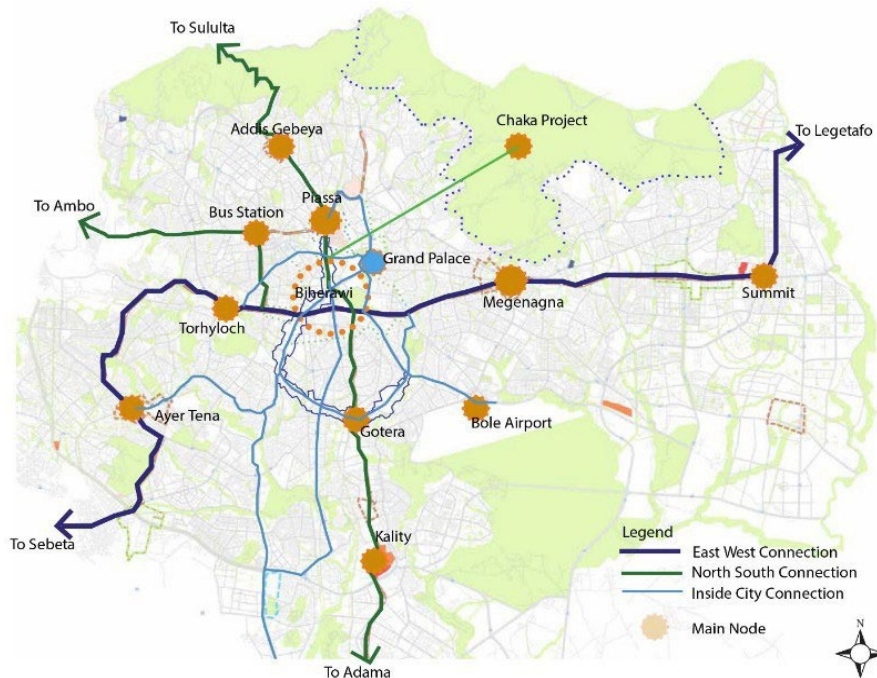


図5 アディスアベバ市の交通網²

クリングに安全で穏やかなルートを提供する。こうした緑のコリドーは、汚染物質に対する天然の緩衝地帯となり、大気汚染の軽減にも役立つ（AAEPGDC, 2020）。

アディスアベバのパブリックスペースは、急速な都市化の中で、アーバンウェルビーイングに欠かせない要素である。緑地を取り入れ、持続可能な設計要素を推進し、コミュニティの参画を強化し、マスカル広場のような文化遺産を称えることで、この都市は都市計画のモデルになる道を順調に歩みつつある。

アディスアベバにおけるストリートコリドーやパブリックスペースの開発は、都市に利益をもたらす可能性を秘めているが、特定の市民

グループに悪影響を与える意図しない結果をもたらす可能性もある。懸念事項のひとつは、露天商のような経済的に弱い立場にある社会集団が移転を余儀なくされる可能性であり、こうした人々の間で貧困が拡大し、経済的安全の低下につながる可能性がある。さらに、開発によって社会的ネットワークや文化的遺産が破壊され、住民の間に離散感や断絶感が生じる可能性もある。その結果、精神的・感情的なウェルビーイングに悪影響を及ぼす可能性がある。こうした影響を緩和するためには、都市プランナーや政策立案者が社会を構成するすべての人々のニーズや懸念を考慮した、包括的で公平な開発を優先することが不可欠である。



図6 新アドワ博物館周辺の公共広場



図7 「テオドロス2世広場」周辺の公共広場

4. 交通インフラ開発

交通インフラの整備は、住民の生活の質に大きな影響を与えるため、アディスアベバにおけるアーバンウェルビーイングの重要な要素である。しかし、アディスアベバは交通インフラの課題に直面している。十分な歩道の欠如、不

適切な公共交通サービス、自動車以外の交通手段の制限などが、アーバンウェルビーイングに大きな影響を与えている。例えば、住民の54%が通勤に徒歩を利用しているが、歩道がある道路はわずか12%しかない（World Bank, 2019）。さらに、徒歩1時間以内の職へのアクセス性を

詳しく見てみると、14.9%の職しかないことがわかる。これは、通勤者のストレスやフラストレーションの増加、生産性の低下、サービスへのアクセスの低下、メンタルヘルスへの悪影響につながる可能性がある。

こうした課題に対処するため、同市は、サイクリング・ネットワークの割合を200Kmを増やすことを目的とした「アディスアベバ・サイクルネットワーク計画」などの取り組みを実施している。(AARTB, 2020年)。また、自家用車の走行台数を減らし、住民のモビリティを向上させるためバス、ミニバス、タクシーからなる公共交通システムを確立している。

ここ数年、同市の交通システムは、より効率的で信頼性の高いバス網の導入、交通渋滞の緩和、公害の減少を目的に、大幅な改革が行われた。市は、すべての種類のバス、電気自動車、オートバイの電化を計画した。同市は、2050年までにバスをディーゼルから電気に100%転換する計画である (AAEPGDC, 2020年)。これにより、CO₂の排出を大幅に削減し、市の公衆衛生を向上させる。さらに同市は、自転車専用レーンや歩行者専用ゾーンなど、自動車以外の交通手段を促進する施策を導入している。こうした取り組みは、交通渋滞、大気汚染、騒音公害を軽減し、身体活動と社会的結束を促進するのに役立つ。

これらの開発により、住民にとって必要なサービス、雇用機会、貧困率の減少、レクリエーション活動へのアクセスが容易になる。また、経済的安定性にも良い影響を与えることが期待される。交通の便が改善されることで、資産価値が向上し、その地域に企業が誘致される可能性がある。

交通インフラの整備は、アディスアベバのア

ーバンウェルビーイングの重要な要素である。同市の交通システム改善への取り組みは、住民の生活の質に好影響を与えている。しかし、特に歩道インフラと公共交通サービスについては、まだ取り組むべき課題が残っている。こうした課題に対処するには、人間中心の交通計画と開発が必要である。

アディスアベバにおける交通インフラ開発プロジェクトの成功は、同市の成長と発展にとって極めて重要である。しかし、プロジェクト実施の遅延、予算の制約、不十分な市民協議がこうした努力の妨げとなり、特定の市民グループのウェルビーイングに影響を与え得る否定的な結果を招きかねない。これには、交通渋滞の増加、大気汚染、手頃な交通手段へのアクセシビリティの低下などが含まれ、毎日の通勤を公共交通機関に頼っている低所得層の住民に不釣り合いな影響を与える可能性がある。



図8 ラガハル地区付近のLRT路線

表2 交通アクセス

モード/エリア	基準	シェア(%)
公共交通機関	60分でアクセス可能な全雇用の平均割合 - ピーク時/オフピーク時	17.1% /15.2%
徒歩のみ	60分でアクセス可能な全雇用の平均割合	14.9%
自動車	60分でアクセス可能な全雇用の平均割合	89.6%
CBDアクセス	公共交通で通勤時間60分以内の都市人口の割合	49%

出典：World Bank, 2021

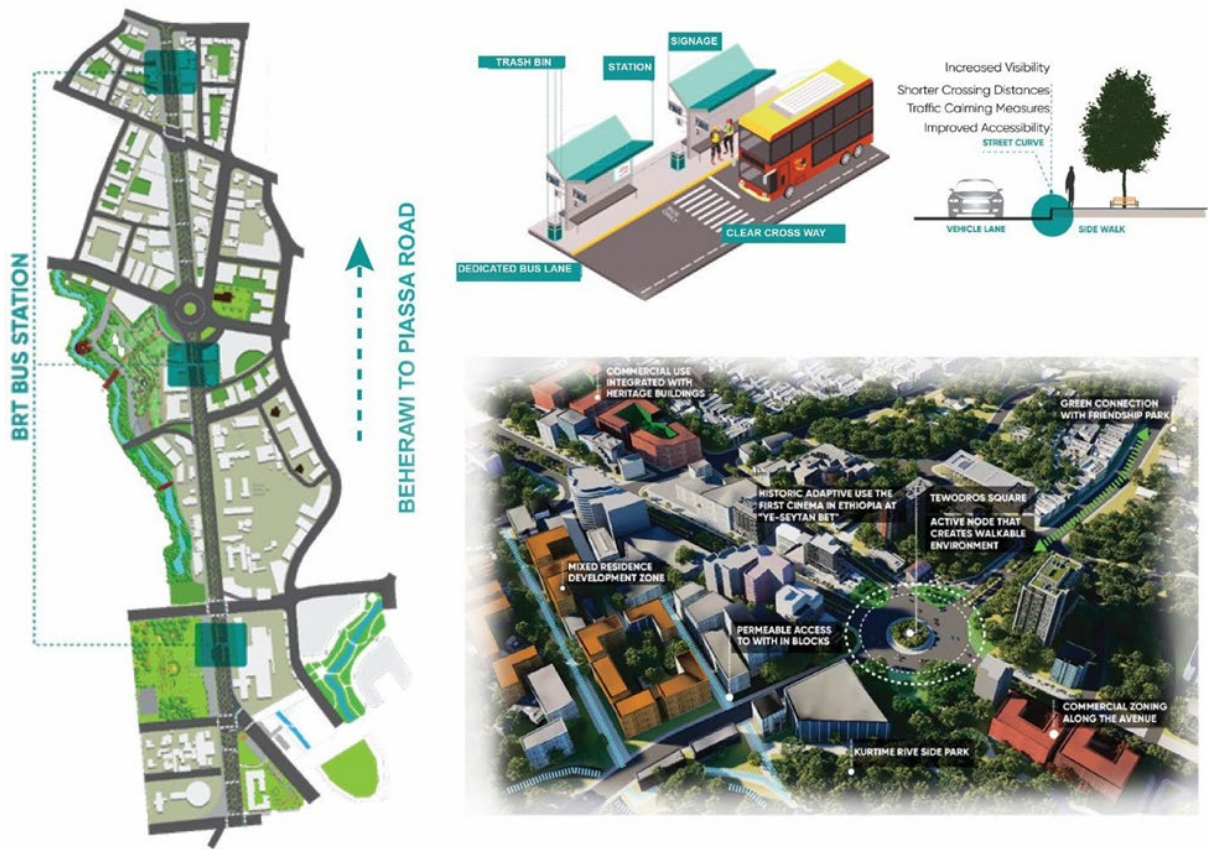


図9 ベヘラウィからピアッサまでの交通コリドー整備案³

交通プロジェクトがタイムリーかつ効果的に実施されないと、労働者の生産性の低下、低所得者層の経済的負担の増大、社会的・経済的不平等の悪化など、さまざまな悪影響をもたらす可能性がある。したがって、政策立案者や関係者は、これらのプロジェクトがアディスアベバの住民のウェルビーイングにとって予期せぬ結果を招かないよう、プロジェクトの確実な実施に優先順位をつけることが不可欠である。

そうすることで、アディスアベバに住むすべての住民にとって、より公平で持続可能かつ豊かな未来を促進することができる。そうすることで、アディスアベバは、すべての住民にとってより公平で持続可能な、豊かな未来を促進することができる。

5. 医療サービス：アディスアベバのウェルビーイングを支えるもの

エチオピアの医療システムは3つの階層に分かれており、それぞれが異なる人口規模に対応している。第一段階は、保健所、保健センター、小病院で構成され、1施設あたりおよそ3,000～

100,000人にサービスを提供している (Ethiopian Public Health Institute, 2023)。第二段階は、それぞれ100万～150万人にサービスを提供する総合病院で構成され、第三段階は、それぞれ350万～500万人にサービスを提供する地域規模の専門病院である (Ethiopian Public Health Institute, 2023)。全国に24,000を超える国営の医療施設があり、アディスアベバにはこれらの施設が相当数ある。

2018年の調査によると、アディスアベバ市には32の病院、22の保健センター、23のヘルスポストと診療所があった (Karadimitriou N., et al, 2021)。診療所やヘルスポストは、小規模で地域に密着していることが多く、主に基本的な健康情報の普及や、病気の予防や治療といった必要不可欠な一次医療サービスの提供に重点を置いている。さらに、民間の医療施設やNGOも医療サービスの需要に応じており、都市部ではその存在感が増している (Karadimitriou N., et al, 2021)。ほとんどの医療施設は比較的利用しやすいが、人口増加の需要を満たすには十分ではない。

日常不可欠な医療サービスを提供し、個人とコミュニティに安心感と信頼を与えることから、アディアスアベバで提供される医療施設とその利便性は、都市住民のウェルビーイングを促進する上で重要な役割を果たしている。

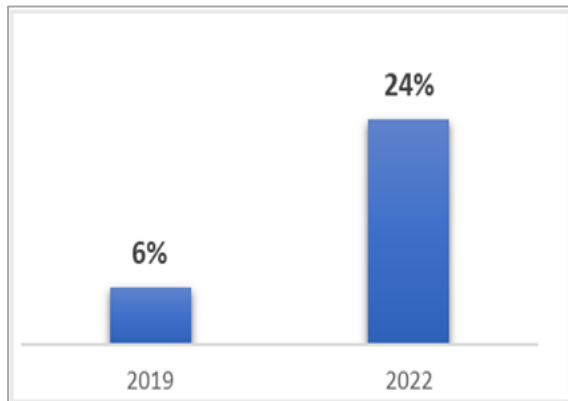


図10 2019年と2022年の地域保険普及率⁴

市のストラクチャープラン（2017年）では、保健所と専門家の数を増やすことで、保健セクターをアップグレードすることを優先している。アディアスアベバの保健医療カバー率は、2015年の62%から85%に上昇したものの、この数字はアフリカの同程度の都市よりも低い（Eregata GT, 2019）。医療施設を見つけるために移動する平均距離は、依然2km未満である（Karadimitriou N., et al, 2021）。近年のこうした進歩にもかかわらず、まだ改善の余地がある。アディアスアベバの都市化が進むにつれ、同市の医療インフラは、市民、特に社会から疎外された人々のウェルビーイングを脅かす重大な課題に直面している。社会から疎外された人々には、低所得者層、支援のない高齢者、低所得世帯の女性や子ども、その他の社会的弱者（慢性疾患、障害、精神疾患を抱える人々など）といったグループが含まれる。医療サービスの向上における資金やスタッフの不足は、医療の質とアクセシビリティを損ない、健康問題の増加、平均余命の低下、患者の満足度の低下につながる可能性がある。これは、経済的負担の増加、生産性の低下、生活の質の低下など、都市全体のウェルビーイングに深刻な影響を及ぼしかねない。

このような課題に対処するためには、市が社会から疎外された人々のニーズを優先し、医療サービスの発展における資金不足と人員不足

を解消するための取り組みが不可欠である。そのためには、すべての市民が質の高い医療サービスを受けられるよう、政府機関、医療提供者、コミュニティ組織が協調して取り組む必要がある。市民の健康とウェルビーイングを優先することで、アディアスアベバは、すべての人にとってより健康で豊かな、持続可能な都市環境を形成することができる。

6. 住宅：アーバンウェルビーイングの重要な要素

アディアスアベバは、急速な都市化と人口増加により、深刻な住宅危機に直面している。インフォーマルな住宅が57%（2006年）から38%（2016年）へと減少しているにもかかわらず、市はアフォーダブル住宅（市場価格より低価格設定された住宅）を提供することに苦慮している。50万戸の住宅が滞留し、相当数のホームレスが発生しているため、同市の課題はさらに深刻化している（AACPPO, 2017）。この危機は住民のウェルビーイングに大きな影響を及ぼし、心身の健康だけでなく、経済的安定や社会的つながりにも影響を及ぼす。

この住宅危機の影響は広範囲に及び、個人の幸福だけでなく、コミュニティの結束にも影響を及ぼす。インフォーマルな住宅での生活は、基本的なサービスの欠如からストレス、不安、うつ病を引き起こす可能性があり、劣悪な住宅環境は呼吸器疾患などの病気のリスクを高める可能性がある（AARPO, 2020）。過密状態やコミュニティスペースの不足は、社会的な問題を引き起こす可能性がある。

一方、インフォーマルな住宅や、基本的なサービスへのアクセスが制限されていると、経済的な機会が制限される。さらに、劣悪な住環境がもたらす不確実性や不安定性は、社会的なつながりやコミュニティの結束を弱める。

政府の総合住宅開発計画（IHDP）は、低所得世帯には手が届かないと批判され、多くの世帯が農民から購入した土地にインフォーマルな住宅を建てることになった（AARPO, 2020）。こうした住宅には基本的な設備が整っていない場合が多く、問題を悪化させ、住民のウェルビーイングを損ねている。

住民の心の健康を促進するために、必要不可欠

欠な安定感と安心感を提供するため、アフォーダブル住宅へのアクセスは、アーバンウェルビーイングを決定する極めて重要な要素である (Rolfe, 2020)。ここ数年、新規住宅建設が進んだことで、アフォーダブル住宅へのアクセス機会の増進、過密状態の緩和、多くの家族の住環境改善が進む兆候はある。これは、住民の全体的なウェルビーイング感の向上にも寄与している。市は、約240万人を受け入れることができる、420,400戸のアフォーダブル住宅の供給計画を立てている (AARPO, 2020)。アフォーダブル住宅を優先的に供給することで、市は、個人のウェルビーイングだけでなく、コミュニティの結束や社会とのつながりを促進することを目指している。

アディシアベバにおけるアフォーダブル住宅の危機は、特定の市民グループのウェルビーイングに重大な脅威をもたらしている。まともなアフォーダブルな住宅がないため、ストレスが増大し、仕事への満足度が低下し、経済的なウェルビーイングに悪影響を及ぼす。アフォーダブル住宅がないために長距離通勤を余儀なくされている住民は、ストレスレベルが上昇し、仕事の満足度が低下する。

住宅と就業機会の空間的ミスマッチは、特定の市民グループに深刻な経済的影響を及ぼす可能性がある。アフォーダブル住宅がないため、職場の近くに住む余裕のない低所得者層の失業率が高まる可能性がある。その結果、経済的安定が損なわれ、購買力が低下し、貧困に対する脆弱性が高まる可能性がある。さらに、アフォーダブル住宅プロジェクトの、非効率的な建

設スピードと品質が問題を悪化させ、多くの住民が適切な住居の選択肢を失うことになる。

すべての住民が利用しやすいアフォーダブル住宅を優先的に供給することで、政策立案者がこの問題に取り組むことが不可欠である。これは、政府のイニシアティブ、官民パートナーシップ、低所得者のニーズを優先したコミュニティ主導の開発などを組み合わせることで達成できるであろう。この問題に取り組まなければ、多くの住民の苦しみを永続させ、アディシアベバにおける全体的なウェルビーイングと社会的結束を損なうことになる。

7. 結論

アディシアベバの都市開発の鼓動は、公園や緑地、ストリートコリドー、社会的交流やコミュニティ形成、憩いの場となっているパブリックスペースに顕著に表れている。アディシアベバが発展を続ける中、政策立案者がアーバンウェルビーイングを促進するイニシアティブを優先し、都市の成長がすべての市民にとって環境的、経済的、社会的に有益なものとなるようにすることが極めて重要である。アディシアベバが前例のない速度で成長を続ける中、アーバンウェルビーイングは必要不可欠であるだけでなく、強靱な都市を築くための重要な要素であることを認識することが不可欠である。

本稿で明らかになったことは、公園や緑地、交通インフラの整備、住宅プロジェクトを都市計画やデザインに組み込むことで、市民の生活の質を高めることができるということである。さらに、こうした取り組みは、渋滞の緩和や大



図11 アディシアベバ、アワレ地区における低所得者層向けの新しい住宅開発

気の質の改善、貧困率の低下や低所得世帯への安定性の提供、パブリックアートの設置による社会的結束の促進など、地域社会にとってより広範な利益をもたらすであろう。

結論として本稿は、急速な都市化によって、アーバンウェルビーイングを促進するための課題と機会が複雑に絡み合っていることを明らかにした。アーバンウェルビーイングは、単に望ましい成果ではなく、持続可能で繁栄する都市を築くための基本的な要素である。こうした分野に優先的に取り組むことで、都市は心身の健康、社会的関係、経済的安定を向上させることができる。

8. 政策提言

これまでの各節で、アディスアベバのアーバンウェルビーイングが直面している課題に取り組むことの重要性を強調してきた。これらのギャップを踏まえ、アディスアベバ市民の快適な居住性と生活の質の向上を目指した政策提言を以下に示す。

第一に、公園や緑地に投資することは、すべての住民にとってより利用しやすく、包括的なパブリックスペースを創造する上で極めて重要である。これは、社会的交流やコミュニティへの参加を促進するような、歩行者に優しいパブリックスペースを開発することで達成できる。レクリエーションエリアを改善し、都市のヒートアイランド現象を緩和するためにも、公園や緑地への投資を強化すべきである。

第二に、市の文化活動を充実させ、コミュニティの結束を促進するためには、地域に根ざした保健医療サービスへのアクセスを向上させること、芸術プログラムや文化イベントを通じて文化活動を充実させること、大道芸人や露天商の安全とウェルビーイングを確保するための研修プログラを提供することが不可欠である。

第3に、アフォーダブル住宅の問題に取り組むことも、コミュニティの結束を促進する上で極めて重要である。これは、包括的ゾーニング (inclusive zoning. 住宅開発で一定割合を低所得者向け住宅にすることを義務づけるもの) の適用を推進し、より包括的でアフォーダブルな住宅を供給することによって達成できる。

最後に、より持続可能で住みやすい都市を実現するには、渋滞や公害を緩和し、経済成長を促進するため交通インフラを改善する必要がある。

これらの政策を実施することで、アディスアベバはアーバンウェルビーイングを改善し続け、住民にとって真に住みやすい都市をつくり続けることができる。

【参考文献】

- Gunjo, S., Guta, D., & Damene, S. (2024). Modeling the economic cost of congestion in Addis Ababa City, Ethiopia. Environmental Systems Research. アディスアベバ市における渋滞の経済コストのモデル化、エチオピア環境システム研究。
- AACPPO.(2017).Addis Ababa City structure Plan [2017-2027] :Final Summary Report. Addis Ababa. アディスアベバ市ストラクチャープラン[2017-2027] :最終概要報告書. アディスアベバ。
- Ababa.AAEP & UNDP.(2015). Climate Resilient Green Growth Strategy and Integrated Climate Change Response Investment Plan Development for Addis Ababa. Addis Ababa. アディスアベバにおける耐気候グリーン成長戦略および総合気候変動対応投資計画の策定. アディスアベバ
- AAEPGDC.(2020). Addis Ababa City Air Quality Management Plan (2021-2025). Addis Ababa.アディスアベバ市大気質管理計画 (2021-2025)。アディスアベバ。
- .AAEPGDC.(2020). Addis Ababa: Climate Action Plan, 2021-2050. Addis Ababa.アディスアベバ：気候行動計画021-2050。アディスアベバ。
- AARPO & GRCN.(2020). Addis Ababa Resilience Strategy. Addis Ababa: Addis Ababa city Administration. アディスアベバ強靱化戦略。アディスアベバ：アディスアベバ市役所。
- AARPO.(2020). Addis Ababa Resilience Strategy.アディスアベバ強靱化戦略
- AARTB.(2020). Addis Ababa Non-motorized Transport Strategy.アディスアベバ非自動車交通戦略。
- AATB. (2023). Addis Ababa Cycle Network Plan (2023-2032).アディスアベバ自転車ネットワーク計画 (2023-2032)。
- Bautista TG, R. G.-B.(2023). What is well-being? A scoping review of the conceptual and operational

- definitions of occupational well-being. *Journal of Clinical and Translational Science* 7: e227, 1-12. doi: 10.1017/cts.2023.648 幸福とは何か？職業的ウェルビーイングの概念と運用上の定義についてのスコアリング・レビュー。臨床・トランスレーショナル科学ジャーナル 7: e227, 1-12.
- CSS. (2023). Population Size by Sex, Region, Zone and Woreda. Addis Ababa. 男女別、地域別、ゾーン別、ウォレダ別の人口規模。アディスアベバ。
- EiABC.(2017). City Profile: Addis Ababa. Addis Ababa. 都市プロフィール:アディスアベバ。アディスアベバ。
- Eregata GT, H. A. (2019). Measuring progress towards universal health coverage: national and subnational analysis in Ethiopia. *BMJ Global Health*. doi:10.1136/bmjgh-2019-001843 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けた進捗の測定：エチオピアにおける全国および地域別の分析。BMJグローバルヘルス。
- Ethiopian Public Health Institute. (2023). Ethiopia : Service Provision Assessment (2021-2022). Addis Ababa. エチオピア：サービス提供評価(2021-2022)。アディスアベバ。
- Karadimitriou N., et al. ‘The State of Addis Ababa 2021: Towards A Healthier City’. Addis Ababa: UN Habitat. 「アディスアベバの現状2021：より健康的な都市を目指して」。アディスアベバ：国連ハビタット。
- MoUDC.(2014). Climate change resilient green development strategy for cities. Addis Ababa: MoUDC. 都市のための気候変動に強いグリーン開発戦略。アディスアベバ：都市開発・建設省。
- MoUDC.MoUDHC.(2015). Manual for Recreational Parks Development and Management. Addis Ababa: MoUDHC. レクリエーション公園の開発と管理のためのマニュアル。アディスアベバ：都市開発・建設省。
- Rolfe, S. &. (2020). Housing as a social determinant of health and wellbeing: developing an empirically informed realist theoretical framework. *BMC Public Health*. doi:10.1186/s12889-020-09224-0. 健康とウェルビーイングの社会的決定要因としての住宅：実証情報に基づく現実主義的理論的枠組みの開発。BMC 公衆衛生。
- The World Bank Group. (2015). Enhancing Urban Resilience: Addis Ababa, Ethiopia. World Bank Group. 都市の強靱性強化：エチオピア国アディスアベバ。世界銀行グループ。
- UN-HABITAT.(2011). The Ethiopia Case of Condominium Housing: The Integrated Housing Development Programme. Nairobi: United Nations Human Settlements Programme. エチオピアのコンドミニアム住宅の事例：総合住宅開発プログラム。ナイロビ：国連人間居住計画。
- UN-Habitat. (2017). The State of Addis Ababa 2017. UN-Habitat. アディスアベバの現状 2017。国連ハビタット。
- Wang’ombe, G. (2024). The Impact of Urban Green Spaces on Community Health and Well-being. *International Journal of Arts, Recreation and Sports*, 14-25. 都市の緑地がコミュニティの健康と幸福に与える影響。国際芸術・レクリエーション・スポーツジャーナル、14-25。
- World Bank. (2019). Transforming Addis Ababa: Integrated Strategic Development: Phase I - Multi-sector Diagnostic. Addis Ababa. アディスアベバを転換させる：総合戦略開発：フェーズI-マルチセクター診断。アディスアベバ。
- World Bank. (2021). Future of Addis Ababa 2021: Addis Ababa’s Strategic Development Framework. Addis Ababa. アディスアベバの未来2021：アディスアベバの戦略的開発フレームワーク。アディスアベバ。

【脚注】

¹ World Bank (2019)による

² アーバンコリドー整備、アディスアベバ、2024年

³ アーバンコリドー整備、アディスアベバ、2024年

⁴ エチオピア統計サービス (ESS) 及び世界銀行